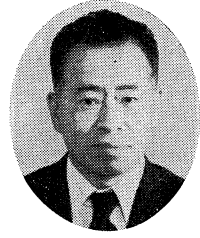


この道に思う



久保田 亮次



随 想

中体連相双大会が終わりスポーツシン
ーズンも一段落した。学習指導、部活
動の指導、生徒指導主事と多忙な教育
活動の中で、何かが一区切りついたと
き、思いがけなくふっと脳裏に浮かび
上がってくるのが、かつての教え子の
姿である。どんな仕事をしているだろ
うか、元気にやっているだろうか。

郡大会も間近に迫ったある晩、中学
教師として担任した最初の卒業生のA
君から「先生、Y君が今度、郷里で商
売をはじめ、同級生で開店祝いをして
いるので来ていただけませんか」と久
し振りの誘いの電話があった。

Y君の進路指導については特別の思
い出がある。大雪の降った晩、二キロ
メートルの雪道を喘ぎながら家庭訪問
をしたこともあった。定時制高校を卒

業後、千葉県に就職したと聞いてから
久しい。「三十歳を越えて商売を始め
るとは……。成功してくれ」と願いつつ、
懐しく、また、不安な気持ちで早速出
向いてみた。

二、三十名の同級生が歓談の真最中
であった。Y君は、さすが店の主人ら
しく、お客へかいがいしく振る舞って
いた。彼は、旧担任の来店にさすがに
嬉しそうで、今までの筆舌に尽しがた
い苦労が報われたためか、「先生、見
てくれ」と言わんばかり、商売人らし
い物腰の中にも毅然とした若者らしい
態度で、実にたのしかった。急にあ
の卒業直前の彼の姿が、まささまとよ
みがえった。

Y君は、スポーツマンで、野球部の
選手として中体連大会でたいへん活躍

した一人であった。彼は農家の二男で
将来は上京して就職し、商売を成功さ
せて身を立てるのだと言っていた。

十月ころ、就職希望者は、もう、そ
の手続きをとりつつあった。彼からは
まだはつきりした申し出がない。彼の
意志を確かめると、家族で話し合った
結果、ぜひ高校に進学したいと申し訳
なきそうに進路の変更を伝えてきた。
三年生になってから、勉強らしい勉強
はほとんどやっておらず、自信もなく、
困惑しきっているようであった。残
りの期間を本気でやるから援助してほ
しいとの申し出に、昼休みを指導援助
の時間にあてた。それから、都合の
つく限り宿直室に呼んで勉強会を開始
した。念願のT高校定時制に合格でき
た。彼は働きながら高校を終えたと聞
いていた。

今、振り返って、あの懐しい私自身の
積極性と行動力、それは、私の若さの
せいだったかもしれない。

しかし、私には、当時の旧大野中時
代の職場の雰囲気、そうさせていた
ように思われてならない。我々、新米
教師に対して、たいへん家族的で明る
かった。

夏休みの一日、木戸川でとった鮎を
河原で車座になってほはばった職員ク
ラブ、校舎営繕の係の先生の指導で「
O土建」と呼びつつ和気あいあいの中
で張り切って行った職員作業、御苦労
であったと教頭先生自らの手づくりの
焼そばの味、また、浜通りにめざらし

く大雪が降った朝、有効に生かそうと
校長、教頭が自ら学帽をかぶっておど
けてみせ、生徒とぶつけ合った全校雪
合戦のひとつなど。

一方、上司には仕事の面での疎漏は
厳しく叱責され、校務分掌ではアイデ
アを生かせと、しばしば激励された。
太っ腹で公私ともに我々を鍛えてくだ
さった学年主任の先生の印象も深い。
こんな雰囲気の中で、教育理論もさ
だかでない新米教師が、三分の一を超
える就職生徒に向って「新しい道に立
ち向って、三日、三カ月、三年が辛抱
のしどころ」などと、若さでぶっつい
たのも、遠慮のいらぬ職場の雰囲気
のおかげであつたらう。Y君も真剣に
私の下手な説教を聞いていた一人であ
つた。

校舎の片隅から拾った小石を掛け言
葉にして「意志は堅く、心は広く、常
に明るく」という手書きの贈り物のハ
ンカチを、A君は、「今も大事に壁に
張っている。石はその下に飾ってある
よ」と言われ、教師としての生きがい
をじんと感じたことであつた。

A君も今は、五人の父親で、双葉地
方の酪農界のリーダーとして活躍して
いる。

彼らとの出会いは、日本が東京オリ
ンピックの準備にわいていた昭和三十
八年であつた。

(富岡町立富岡第二中学校教諭)